

【様式①】令和6年度 学校評価書(小・中・特別支援)

学校名 芥見小学校

校長名 岡崎 佳代子

市の重点課題	学校の重点項目	自己評価	達成状況	学校関係者評価委員会から	改善の方向
希望あふれる未来を自ら拓く力を育むための教育課程の編成	「チーム学校」として、保護者や地域の願いを踏まえ、職員が学び合って指導力を高め、児童自ら学びを深め合い、ICTを効果的に活用しながらの授業改善を工夫し、自己肯定感につながる「できそう、わかった」の授業実践に努める。	B	<ul style="list-style-type: none"> 児童がICTを効果的に活用できるように、職員が研修を通して学び合い、授業に活用する場を設けている。 児童が自分の考えをもち、仲間と学びを深めるために、タブレット機能を積極的に利用する姿が増えてきた。 英語教育においては、1年生から6年生までのカリキュラムを見直し、英語が楽しいと思える授業づくりに努めた。ICTを活用し、興味を持ったことを調べたり、伝えたい内容をまとめて発表することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎回授業参観では、児童の明るい姿を目にし、楽しく思う。今後も健全な指導を願っている。 ICTの活用も工夫されている。子ども達も使いこなしている様子がわかる。 英語の授業では、子ども達がALTの先生と楽しそうに会話をし、抵抗なく会話ができる雰囲気づくりや活動の工夫が行われていることがわかる。さらに英語教育がどのように進んでいるのを知りたいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 「授業が楽しくわかりやすい」という児童アンケートでは84%であった。教科の特性をいかしつつ、子ども達が自ら課題を見つけ、解決していくことで「できた」「わかった」といえる授業改善をすすめていく。 体験的な学習が少しずつ増えてきているので、実感を伴う学びをこれからも継続していく。
コミュニティ・スクールの機能の充実と岐阜市型小中一貫教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 地域と学校の協働の在り方を模索しつつ、指導体制の確立と地域人材の活用により、コミュニティ・スクールの機能の充実を図る。 幼保との連携や中学校区3校で連携を図り、小中一貫での活動の充実に努める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 児童が地域の方の協力を得ながら、体験学習(鮎の放流・稲作・豆腐作り・狂俳)をする機会を設け、地域のよさを再認識したり受け継がれる文化を知ったりすることで、未来について考える学習を進めている。 幼保小では、幼保小連絡協議会では日頃の取組を交流しこれからの実践に生かせるようにしている。小中では、児童の地域行事への参加や、中学3年生と小学1年生が授業するなどして交流している。 	<ul style="list-style-type: none"> 「地域の中の芥見小学校・地域で暮らす児童と保護者」として、自治会と学校・PTAの連携は、子どもの健やかな発達に重要な役割を果たすと考える。今後、それぞれの立場でより相互理解が深められることを期待する。 体験学習では、子ども達が楽しそうに取り組み、貴重な経験ができています。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の人材をさらに生かした体験学習を計画したり、芥見のよさ再発見やキャリア教育につなげていく。 幼保小の連携協議会、小学校と中学校の教師間の交流などの場を増やす。
あたたかさど働きがいにあふれる学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> 同僚性の維持・向上を大切に、良質な情報交換と異なる視点からの交流を活性化することで教職員のコミュニケーション力を高め、子ども一人ひとりの思いに寄り添いあたたかい学校づくりに努める。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校職員全員がそれぞれの立場で考えたことをいつでも話せる環境づくり、関係づくりにも努め、気付いたり感じたりしたことを交流している。 児童の思いに寄り添うことを大切に、アンケートやここたんの活用しながら、早期に悩みに対応できるよう努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 子ども達の元気な姿に嬉しく感じる。多様性の時代の教育。子どもだけでなく、保護者との関係性も多いのではと感じる。先生方にはいつも感謝である。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケートの「学校は、豊かな心・思いやりの心をもった子どもを育てようとしている」では93%、「家庭や地域と連携して子どもの指導を行っている」では96%がどちらも昨年度より上回っている。今後も、子ども一人ひとりの思いに寄り添っていく。 職員間で情報を常に交流し、いじめの未然防止に努める。
災害、事故、感染症、生徒指導事案等に対する安全性の確保	<ul style="list-style-type: none"> 「命を守る訓練」「地域防災訓練への参加」で学年に応じた防災教育、登下校及び校内の安全教育を適切に進める。 生命の大切さを日常生活の中で意識できるように働きかけ、ここたん、アンケート、あのねポスト等からの情報収集、全職員による情報交流、教育相談等の素早い対応でいじめ防止に努める。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 様々な場合を想定し「命を守る訓練」を実施したり、「防災教育」の後援会やPTA主催の体験活動を実施したりして保護者と共に安全教育について考えた。 児童の悩みや不安に対し早期対応を常に心がけ、児童の思いに寄り添って話を聞いたり、ここたんやアンケートなどの活用や情報交流をしたりすることにより全職員での対応に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの抱える悩み、課題は複雑になってきている。「寄り添う」ことがより大事になってくると感じる。 日本をはじめ世界でもフェイクニュース等SNS上での問題が見受けられる。SNSの真の利活用について指導ができるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの命に関わることは、日頃から地域、保護者を協力しながら健康安全を最優先にしていく。どのように連絡をするのか等も含めて、「命を守る訓練」の内容を見直ししていく。 昨年度も通学路ワークショップを受け、通学路の安全確認と見直しも進めていく。
教育環境と学校財務環境の整備及び効果的な活用	<ul style="list-style-type: none"> 効果的な教育を目指して、月一回の安全点検のほかに、日頃の点検の充実を図り、設備・備品等の再利用や修繕を進めて教育環境を整備する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 校舎内の環境として、少しずつ経年劣化等は進み、修繕が必要な箇所が増えてきている。安全を確保するためにも、日頃の点検を実施し教育環境を整備していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 廊下や室内に子ども達の作品があるのはよい。温かく感じられ、貼ってあるだけで違う。 	<ul style="list-style-type: none"> 常に安全に生活できる環境づくりに心がけ、月1回の安全点検と速やかな対応を続けていく。 児童が主体的に活動できるよう見通しをもった計画をし、必要な教材等を整える。

HPアドレス: <https://gifu-city.schoolcms.net/akutami-e/>